

自主防災組織

東日本大震災時の自主防災活動
あの日あの時

青葉区東六番丁民生委員児童委員協議会

地域の連携。町内会や婦人防火クラブとともに

地域の避難所が帰宅困難者の避難所になった。

東六民児協は所属 22 名で、社会福祉協議会、日赤奉仕団の三位一体の組織です。三位一体のメリットは総合的な団結の下で効果的な活動ができること、デメリットは各民生委員個々の負担が多いことと考えています。

震災当日、当地区にある東六番丁小学校、東六コミュニティセンター及び常盤木学園に多くの住民が避難しました。そのうち市指定避難所は東六番丁小学校ですが、東六民児協はここで避難所運営を行いました。3月11日の発災当日から避難所が閉鎖された25日までの14日間、午前10時から午後24時まで交代制で活動しました。

3月11日の地震発生当日、東六番丁小学校では、校長の判断で避難所を開設し、体育館、教室、廊下を開放し、旅行者の帰宅困難者など1,800人を受け入れました。多くの地区住民は東六小学校に避難できなかったため、これらの住民を東六コミュニティセンターへ誘導しました。

また、私たちは、75歳以上の方や気になる支障のある方々の安否確認を行いました。避難所ではこれらの方々のケア、支援物資の管理、清掃ごみ処理、体調不良者の観察等を町内会、婦人防火クラブ等地域組織と連携して行いました。



▲避難所運営や安否確認で活躍の東六民児協の皆さん